



環境変化に対応し次代につながるまちをつくる

鹿嶋市長
田口 伸一氏

筑波銀行鹿嶋支店長
高野 尚仁

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県鹿嶋市です。筑波銀行鹿嶋支店長 高野尚仁が鹿嶋市長 田口伸一氏にお話を伺いました。

データ重視の政策形成

今年4月に市長に就任し、鹿嶋市の市政を担うこととなりました。これまで、市民・事業者・団体活動者・県議会議員という様々な立場から生まれ育った鹿嶋市のまちづくりに係わり、本市の魅力や強み、課題、まちづくりの方向性について考えてきました。また、これまでの職務や事業を通じて培ってきたデータ分析や財務、DXに対する実績と知見を前市長に買われて後任を託されたこともあり、市長選挙に立候補しました。本市を取り巻く環境が大きく変わる中、データを重視した政策を立案・実行し、次代につながるまちづくりに取り組んでいきます。

カーボンニュートラルへの取り組み

国と茨城県の動向

政府は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言し、日本全体で温室効果ガス排出量の削減、吸収作用の保全および強化を進めています。国土交通省は、2020年9月に洋上風

力発電の基地となる港湾（海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾）を4か所指定しました。鹿島港はその内の一つであり、現在、国の直轄事業で岸壁の地耐力強化や航路・泊地等の整備が進められています。

茨城県では、2022年3月に次世代エネルギー（水素・燃料アンモニア等）および再生可能エネルギー（洋上風力）の需要と供給の拠点となる鹿島港での「カーボンニュートラルポート（CNP）」の形成について計画案を発表しました。また、国、県ともに巨額の基金を創設し、企業等における脱炭素化に向けた研究開発や設備投資に対する支援に取り組んでいます。

本市の産業政策

鹿島港と鹿島臨海工業地帯を有する本市は、大量のエネルギーを必要とする鉄鋼業を中心とした製造業が基幹産業であり、市内総生産の45%を占めています。そのため、カーボンニュートラルに向けた世の中の動きは、市内産業に大きな影響を及ぼすことが予想されますが、本市の成長にとっての大きなチャンスであると考えています。

本市の基幹産業の中心である日本製鉄株式会社

は、次世代製鉄技術の研究開発と設備投資に5兆円近い巨額の投資を行い、カーボンニュートラルを目指すとした「日本製鉄カーボンニュートラルビジョン2050」を公表しており、本市としては、このビジョンが本市で実現できるよう、国や県をはじめとした関係者と連携・協力してバックアップしていきます。

洋上風力発電については、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札とされており、事業規模が数千億円、部品点数が数万点とすそ野の広い産業であり、この産業を本市の新たな基幹産業の一つとしていくため、「鹿嶋市洋上風力発電事業推進ビジョン」を策定し、関連産業の立地集積や立地企業の新規参入などを促進するとともに、運搬やメンテナンスなどを行う「総合支援拠点」の形成を図ります。

また、本市の事業者は、今後の大きな変化に不安を抱えていると思いますが、ビジネスモデルの転換などで存続・発展は可能と考えています。もともと本市の事業者は、港を造っていた人がここに定住し、土木工事業に転向しました。今度は逆となります。時代の流れに合わせて土木工事業から再び変化していく業種転換も促していきたいと考えています。国や県、金融機関等と連携をとりながら、スピード感を持って支援していきます。

いずれにしても、本市の今後の産業政策の基本は、カーボンニュートラルの先進地域を目指すことです。そのために、臨海部の新産業の育成、集積に向けた機運の醸成、体制の構築、支援の拡充の3つの対策を講じていきます。

鹿嶋港



鹿嶋アントラーズとの連携

アントラーズホームタウンDMO

アントラーズホームタウンDMOは、鹿嶋アントラーズのホームタウン（鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市）である鹿行地域にスポーツツーリズムを核とした観光プラットフォームを確立し、交流人口拡大や雇用の創出、地域経

済の活性化を行うために、2018年に設立されました。設立後は、スポーツ合宿や、豊かな自然や歴史文化などの観光資源を活かした着地型ツアー等に取り組んできましたが、近年、コロナ禍でツアーが開催できなくなってからは、土産物販売や新電力販売事業などで収入を確保してきました。

2021年からは徐々にツアーが再開できるようになってきており、これからは、サッカーに限らず幅広い競技のスポーツツアーを展開し、試合観戦ツアーなど鹿島アントラーズとも連携した事業を実施していきます。本市としても、DMOが自立した運営ができるようバックアップしていきます。

カシマサッカースタジアムエリア

鹿島アントラーズの本拠地である茨城県立カシマサッカースタジアムが、東日本大震災による被災や塩害などで老朽化したことにより、鹿島アントラーズは、本市内での建替えか、あるいは、本市以外のアントラーズホームタウン4市（潮来市、神栖市、行方市、銚田市）いずれかへの移設を含めた、新スタジアム構想を検討しています。

本市は、ハザードマップにかからない安全な場所、機材等の搬入や搬出が円滑に行える場所、集客が容易である場所、都市計画法上の許可が可能な場所等、適切な候補地を鹿島アントラーズに提案し、スタジアムが引き続き本市に所在するよう働きかけています。

本市にスタジアムが継続して所在することで、スポーツを通じた市民生活の向上や賑わいの創出、新旧スタジアムの建設と解体、インフラの整備事業などによる雇用の創出につながることを期待しています。

茨城県立カシマサッカースタジアム



中心市街地活性化について

市民の「日常」を重視した活性化

本市の中心市街地は鹿島神宮周辺エリアです。このエリアを将来に向けて活性化していくために

は、観光客を呼び込み賑わいを創出し、観光消費を促進することを目的とした観光政策のみを実施するのではなく、「日常」と「非日常」をうまくミックスさせた政策に取り組みます。

本市の観光入込客数約146万人（2020年）は「非日常」と考え、6万6千人の市民が365日生活していることを観光入込客数と同じように数えた約2,400万人（6万6千人×365日）を「日常」と考えます。

非日常よりも日常の人数の方が圧倒的に多く、需要も多いことから、本市の活性化は、まずは、観光以外の日常に関することをしっかりやり、それから、非日常に関する取り組みを行います。

「日常」に関する取り組みとしては、2023年4月の開園を予定している子育て支援センターの設置やオフィスの誘致などが挙げられます。人口の増加に従ってまちを広げてきたことで移転した公共施設を、ゆくゆくは中心市街地に戻し、コンパクトシティを進めることによって、少ないインプットで多くのアウトプットを出していきたいと考えています。

「非日常」に関しては、鹿島神宮周辺エリアに集中して取り組みます。このエリアの空き店舗への新規出店支援や景観整備などを実施します。

空き店舗を埋める取り組みとしては、補助金による支援や、期間を限定して出店するような柔軟な利用の提案を行っていきます。コロナ禍が収束して観光客が戻ってくるようになれば、古武道体験や、浴衣を着て鹿島神宮周辺を散策することなど体験型の観光も行いたいと考えています。

鹿嶋市中心市街地



鹿嶋市チャレンジショップ支援事業補助金

中心市街地で新規に事業を開始、または既存の事業を拡大する事業者に対し、店舗改修費及び店舗賃貸料を補助しています。

店舗改修費は当初の100万円から300万円に補助金額を拡大し、実効性が良くなったため、事業者の利用意欲が高まったと考えています。

2020～2021年度は計5店舗に補助金を交付しており、2022年度は4店舗を支援することとしました。

本市中心市街地の空き店舗は店舗併用住宅が多く、住居の一部である店舗スペースを賃貸することへの抵抗感が、空き店舗に新規店舗が入りにくい原因となっていました。この補助金を推進し、賃借人は行政から支援を受けられるような身元のしっかりした人だと安心してもらうことで、家主が自宅の空き店舗部分を賃貸することへの抵抗感がなくなり、空き店舗の活用が進むことを期待しています。

※鹿嶋市チャレンジショップ支援事業補助金については、P11も参照してください。

デジタル技術の活用

本市で実施しているさまざまな業務のデジタル化を推進していきます。現在は、デジタル化の前段として、市役所の各課で実施している全ての業務について、必要な業務であるか不必要であるかを洗い出します。ごく限られた市民のニーズに応える業務ではなく、真に市民全体に資する業務を洗い出して、不必要と判断した業務をすべて除いてから、デジタル化に着手することが目的です。

業務にデジタル技術を取り入れるために一時的にコストが上がっても構いません。例えば、プレミアム付き商品券は、デジタル商品券と印刷した商品券の初年度のコストが同じであったとしても、継続実施することで、技術が進展した何年か後には、デジタル商品券の方が印刷した商品券よりも大幅にコストが安くなるが見込めます。ただし、デジタル化しなくてもよい業務はデジタル化せず、現状の方法を継続します。

業務のデジタル化により、本市職員のワークライフバランスを高めるとともに、真に市民のためになる行政サービスを提供していきます。

筑波銀行に期待すること

本市の若い経営者の相談に乗ってほしいです。企業は判断に迷った際には、同じく事業を展開している経営者の先輩、顧客、銀行の意見を参考にすると考えています。

特に銀行は、モラルや経営についての考え方、先進事例の宝庫なので、経営者を先導し育ててくれることを期待しています。

（取材日：2022年6月28日）



わがまちの空き店舗対策

—鹿嶋市—

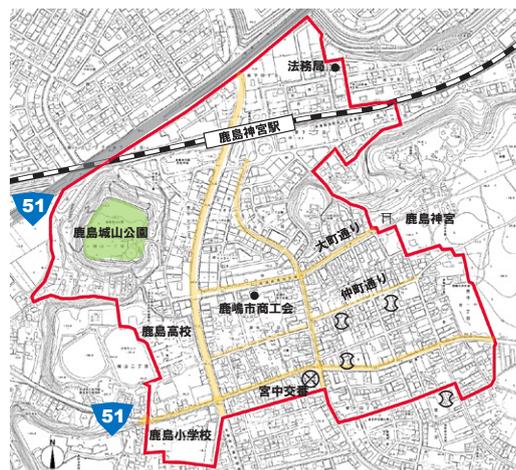
このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

鹿嶋市チャレンジショップ支援事業補助金

鹿嶋市は、中心市街地活性化基本計画区域内（下記の赤枠内エリア）において営利を目的とした事業を新規に開始、または、既存事業を拡大する個人や法人に対し、補助金を交付しています。

経費区分	対象経費	補助率	補助額上限
店舗改修費	内装工事、外装工事、給排水設備工事、サイン工事、電気工事、撤去工事等に要する経費	2分の1	300万円
店舗賃借料	家賃、礼金、管理費、共益費、その他類する費用	10分の10	月額20万円（10ヶ月以内）
要件	<ul style="list-style-type: none"> ◇小売・飲食・宿泊・サービス業など観光客の利用が見込まれる業種 ◇市内外からの回遊客が立ち寄りやすい業態の事業 ◇鹿嶋市商工会への加盟等 ※本市に居住していなくても申請できます		

中心市街地活性化基本計画区域



2020年度、2021年度に補助金を交付したチャレンジショップ

まちカフェ あらみたま

鹿嶋神宮奥参道の奥宮前に建つカフェです。
営業時間 9:00～16:00
定休日 無休



コワーキング・コミュニティスペース みちくさ

ワーキングスペースやおしゃべりが楽しめるスペース。レンタサイクルや手荷物預かりもしています。
営業時間 9:00～19:00
定休日 月、火



パラダイス ジェラート&ドーナツ

地元の農家が経営する地産地消のジェラートとドーナツのお店です。
営業時間 14:00～18:00
定休日 月、火



わらびもち専門店 鎌倉

鎌倉時代から続く高貴なお菓子、わらびもちの専門店です。
営業時間 10:00～17:00
定休日 無休



ウツギ酔賢店 ようひんてん

地元鹿嶋の素材にこだわった海鮮を楽しめる浜焼きのお店です。
営業時間 17:00～21:00
定休日 月、第3月・火



詳しくはホームページをご確認ください。

<https://city.kashima.ibaraki.jp/soshiki/45/60551.html>



お問い合わせ先

鹿嶋市経済振興部
商工観光課
TEL 0299-82-2911